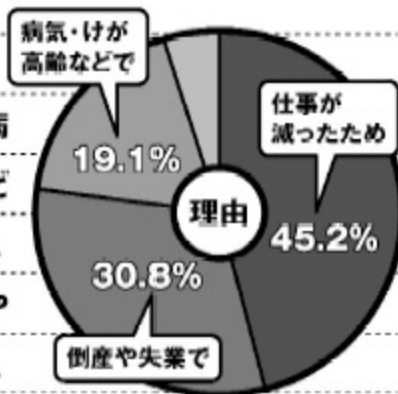


なぜそんなにたくさんの方が野宿をしているの？

現在、全国で野宿者の数は約3万人。2003年の厚生労働省調査では、多くの人々が野宿にいたった理由として「仕事が減った」(45.2%)「倒産・失業」(30.8%)「病気・けが・高齢で仕事ができなくなった」(19.1%)をあげています。また、失業などによって生活に困っても生活保護さえなかなか受けられないというのが現状です。野宿者の急増は、決して「怠けもの」「好きで野宿してる」というような個人の資質や趣向が原因ではなく、厳しい経済情勢を背景として起こっている現象なのです。

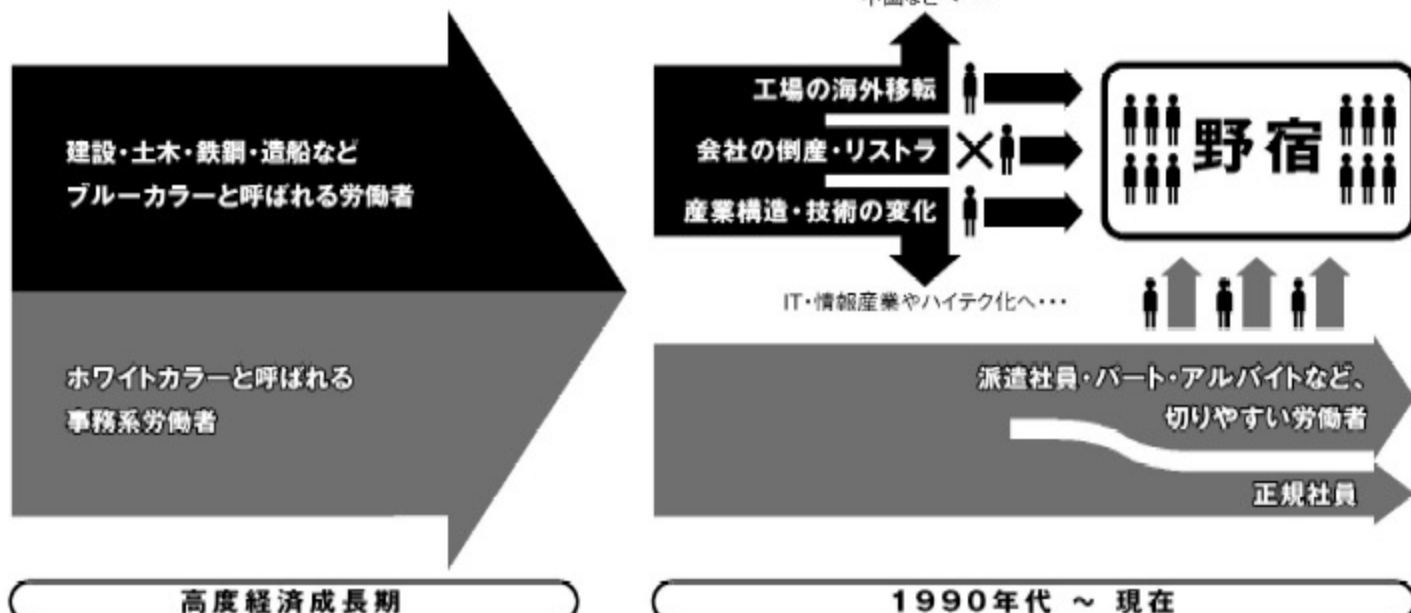


仕事なんて頑張って探せばあるはず。努力が足りないんじゃないの？

野宿者の多くは長年、建設・土木・鉄鋼・造船などの産業に従事し、日本の高度経済成長を支えてきた労働者です。しかし、これらは斜陽産業と呼ばれ、もはや労働力の需要がなく工場等は海外に移転してしまっているのです。現在、リストラな

どで失業者はますます増えています。その中で、住所も連絡先も身元の保証もない50代・60代の野宿者が、長期失業というハンデを抱え競争に勝ち残って安定した再就職先を見つけるのは絶望的です。また、企業のコスト削減のため、派遣やパート・アルバイトなど「使いやすく切りやすい」不安定な立場の労働者が増加し、若い世代にも野宿する人が増えています。失業そして野宿の問題は、決して他人事ではありません。

■野宿生活者を生み出す主な社会状況



政府のエネルギー政策、農業政策の転換により元炭坑労働者や農民などの人々が高度経済成長を支える下層労働力として都市部に押し出される。

市場万能論・弱肉強食原理を基礎とする新自由主義政策が行われ、自由な競争の名の下にリストラの横行、不安定就業労働者の増大、社会保障の切り捨てがすすむ。この状況によって生み出されるひずみは一切「自己責任」に帰せられる。

さまざまな状況において、多くの人々が安定した住居を持つだけの仕事にありつけず野宿をしています。そして、疲れた体を休め、雨風・寒さから体を守り、通行人による嫌がらせや襲撃などの危険から逃れるため、公園にテントを立てて暮らしているのです。テントはまさに自らの生活と命を守る拠点です。そこに野宿者同士集まり、寄り添い、支えあいながら厳しい状況を生き抜いているのです。